

【講義2】くずし字について

おかだ たかのり
岡田 貴憲

一、はじめに

この講義では、日本古典籍を取り扱う上で必須の教養である「くずし字」について、基礎知識の概説と、初歩的な課題による読解訓練を行う。

「くずし字」は、時代・ジャンル・個人によって崩し方の差異が大きく、その自在な読解には相当の修練を要する。この講義を第一歩として、本資料に記載する辞典・教材類を活用しつつ、習得に向けた継続的な練習に取り組んでいただきたい。

(過去5年の担当教員：齋藤真麻理、海野圭介、恋田知子)

二、くずし字とは

文字資料のうち、楷書の点画（てんかく）を省略した手書き文字、そして手書き文字をもとにした版本の文字のことを「くずし字」という。

書道史では点画の省略段階を「草書」「行書」等に区分するが、歴史学・日本文学・書誌学の研究分野では、それらを包括的に「くずし字」と総称する。なお書道史研究の対象外とされやすい近世文書や古典籍の文字については、明確な区分が存在しないことから、「くずし字」という用語がそのまま一般的に使われている。

「くずし字」は古典籍や古文書などの表記に用いられてきたが、明治時代以降、金属活版印刷の普及や仮名字体の統一に伴って衰退した。その後の例として残るものとしては、速記性・秘匿性を求められる手書きの書簡類や、デザイン性を求められる看板類などがある。

三、くずし字の特徴

1) 変体仮名

「くずし字」には、現行の標準字体の仮名に加えて、それとは異なる字体の仮名＝変体仮名が多く用いられる。変体仮名とは、明治33年(1900)の「小学校令施行規則」で採用されなかった仮名で、古典籍や古文書を読む上で必須。それぞれの仮名の元となった漢字を「字母」という。

2) 漢字の省略、異体字・俗字

漢字の「くずし字」は、楷書の点画を省略した「草書」「行書」で書かれるほか、通行の字体とは異なる異体字・俗字をしばしば用いる。点画の省略方法には一定の法則があり、時代・地域・個人単位で特徴が見られる場合も多い。省略については波多野幸彦監修『くずし字辞典』、異体字については日外アソシエーツ編集部『漢字異体字典』などを参照。

3) 連綿体、踊り字

「くずし字」には、二文字以上の文字を続けて書く連綿体(つづけ字)や、同一の漢字・仮名を「>」「<」「々」などの符号、同一語句の繰り返しを「/」(くの字点)で表記する踊り字が頻出する。連綿体は一字ずつの区分が困難な場合もあり、また踊り字は連綿の中に紛れることも多く、ともに注意が必要。特に「申候」「御座候」などの敬語の定型句は、省略の大きな連綿体になる場合がある。

四、くずし字の読み方

1) 漢字と仮名を判別する

崩して書かれている文字が、漢字なのか仮名なのかを判別する。その手がかりとして、変体仮名の字母を覚えることから始める。変体仮名の字母は全部で322種あるが、その中でも使用頻度の高い字母150種(48音×3)をまずは習得する。現在の標準字体と同じ字母であっても、崩し方が違う場合があるため注意。

2) 前後の文章から文字を類推する

読めない文字があっても、その前後を埋めていくことで意味を掴んでいく。また一文字では複数の読み方が可能な場合でも、前後の文章から最適な読みを試みる。特定の地名や人名などは判別が難しいため、地名辞典や人名辞典を活用する。

3) 清音と濁音を判別する

基本的に古典籍の表記には、文字に清濁の別がついていない（稀に濁点などが付いている資料もある）。濁点（ゝ）・半濁点（゜）は文章の前後で判断して、解読する側で読むことになる。また同じ語でも時代によって清濁が異なる場合があるため、時代別の辞書などで確認する。

参考文献（著者五十音順）

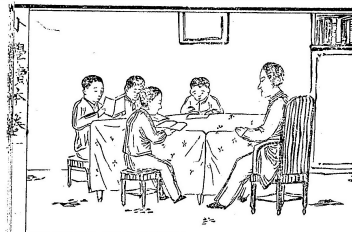
【辞典・字典】

- ・江守賢治『草書検索字典』（三省堂、2007）
- ・笠間影印叢刊刊行会編『字典かな一写本を読む楽しみ』（笠間書院、2003）
- ・児玉幸多『くずし字解読辞典 普及版』（東京堂出版、1979）
- ・児玉幸多『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版、1981）
- ・日外アソシエーツ編集部『漢字異体字典』（日外アソシエーツ、1994）
- ・根岸茂夫『江戸版本解読大字典』（柏書房、2000）
- ・波多野幸彦監修『くずし字辞典』（思文閣出版、2000）
- ・林英夫監修『増訂 近世古文書解読辞典』（柏書房、1972）
- ・法書会編『五體字類 改訂第四版』（西東書房、2014）

【教材】

- ・アダムカバット『妖怪草紙—くずし字入門』（柏書房、2001）
- ・兼築信行『一週間で読めるくずし字 伊勢物語』（淡交社、2006）
- ・兼築信行『一週間で読めるくずし字 古今集・新古今集』（淡交社、2006）
- ・中野三敏『くずし字で「百人一首」を楽しむ』（角川学芸出版、2010）
- ・中野三敏『くずし字で「おくのほそ道」を楽しむ』（角川学芸出版、2011）
- ・中野三敏『くずし字で「東海道中膝栗毛」を楽しむ』（角川学芸出版、2012）
- ・中野三敏『くずし字で「徒然草」を楽しむ』（角川学芸出版、2013）
- ・吉田豊『寺子屋式古文書手習い』（柏書房、1998）
- ・吉田豊『寺子屋式古文書女筆入門』（柏書房、2004）
- ・吉田豊『寺子屋式続古文書手習い』（柏書房、2005）

◀明治8年の小学校教科書（『小学読本』）では変体仮名が使われている



汝等ハ、文字を、讀ミ得ルカ、
 ○文字を讀むことを、知ら
 ざれば、人より、贈りたる、書
 状をも、讀むこと能はず、○
 又書籍を、讀み得ざるとき
 ハ、事を、知ること能はず、○
 事を、知らざる人ハ、縦才あ
 りと雖、用ニハ、適せざるな
 り○ゆゑに、文字を、讀むこ

汝等は、文字を、讀み得るか、
 (三) (可)

○文字を讀むことを、知ら
 ざれば、人より、贈りたる、書
 状をも、讀むこと能はず、○
 又書籍を、讀み得ざるとき
 は、事を知ること能はず、○
 事を、知らざる人は、縦才あ
 りと雖、用には、適せざるな
 り○ゆゑに、文字を、讀むこ
 (三) (多)
 (三) (須)
 (三) (春)
 (奈)
 (惠)

国立国会図書館蔵、DOI:10.11501/868232

◀明治33年「小学校令施行規則」（文部省）

英語ヲ授クルニハ常ニ實用ヲ主トシ文辭音ニ注意シ正シキ國語ヲ以テ譯解セシムルコトヲ務ムヘシ
 第十六條 小學校ニ於テ教授ニ用フル假名及其ノ字體ハ第一號表ニ、字音假名遣ハ第二號表下欄ニ依リ又漢字ハ成ルヘク其ノ數ヲ節減シテ應用廣キモノヲ選フヘシ
 尋常小學校ニ於テ教授ニ用フル漢字ハ成ルヘク第三號表ニ掲クル文字ノ範圍内ニ於テ之ヲ選フヘシ
 第十七條 尋常小學校各學年ノ教授ノ程度及毎週教授時數ハ第四號表ニ依ルヘシ但シ土地ノ情況ニ依リ學校長ニ於テ體操ノ毎週教授時數中ヨリ一時ヲ減スルコトヲ得
 圖書唱歌手工裁縫ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルトキハ其ノ毎週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目ノ毎週教授時數中ヨリ四時以

文部省第十四號 小学校令施行規則 十七

国立国会図書館蔵、DOI:10.11501/992598

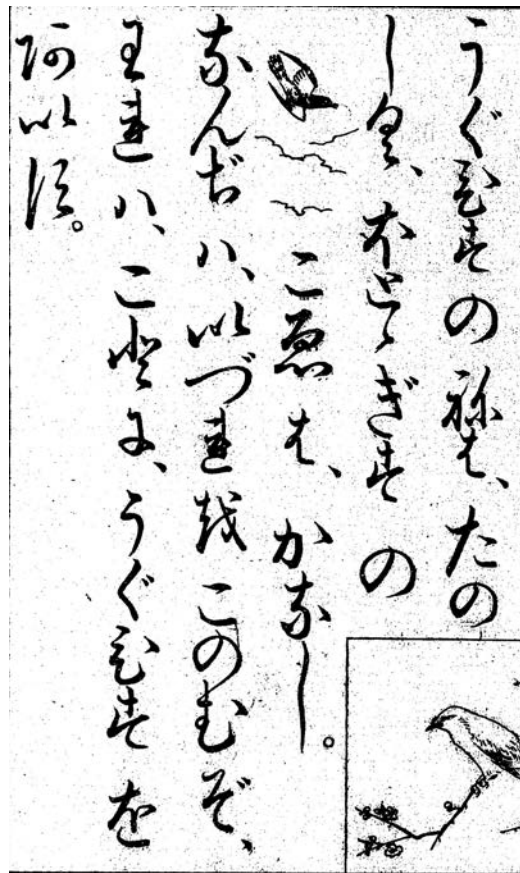
第一號表			
平假名	片假名	平假名	片假名
あいうえお	アイウエオ	らりるれろ	ラリルレロ
かきくけこ	カキクケコ	わらうをを	ワキウエヲ
さしすせそ	サシスセソ	ん	ン
たちつてと	タチツテト	がぎくけこ	ガギグゲゴ
なにぬねの	ナニヌネノ	さしすせぞ	サシスゼゾ
はひふべほ	ハヒフヘホ	たちづぞと	ダチヅゾト
まみむめも	マミムモ	はひふべは	ハヒフベハ
やいゆえよ	ヤイユエヨ	はびふべは	ハビフベハ
			パピフベガ

文部省第十四號 小学校令施行規則 八十五

■課題1 明治時代の小学校教科書を読む

『読方入門』（明治17年、文部省編輯局）

（国立国会図書館蔵、DOI:10.11501/901674）



うぐ の たの

し の

こ か し。

んぢは、 このむぞ、

は、こ うぐ を

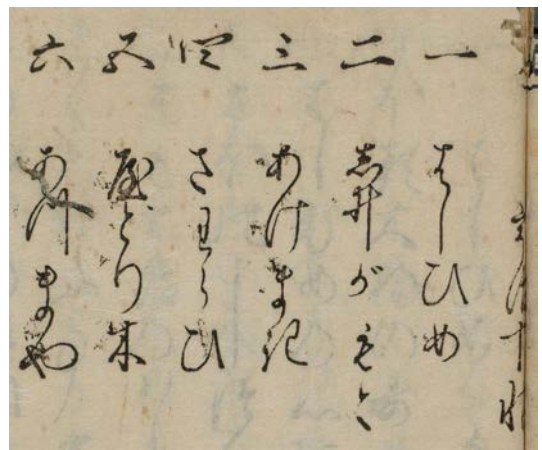
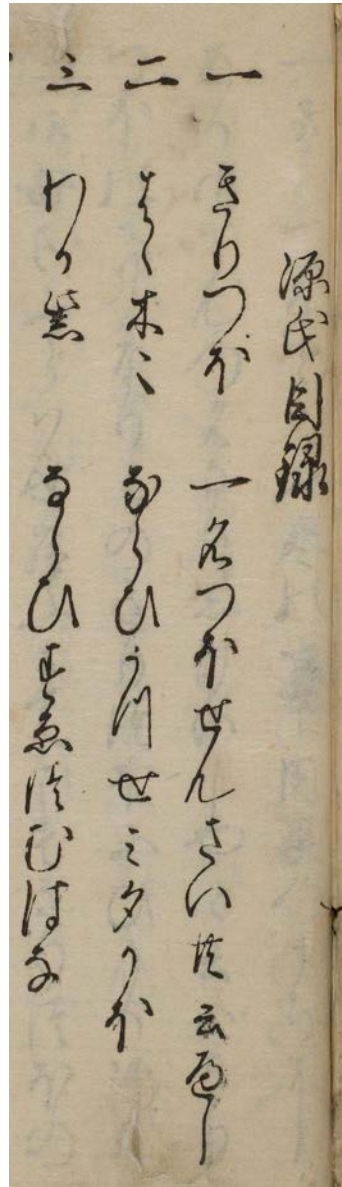
▼『読方入門』所載の「平假名」一

せ <small>せ</small>	み <small>み</small>	あ <small>あ</small>	け <small>け</small>	の <small>の</small>	な <small>な</small>	た <small>た</small>	る <small>る</small>	へ <small>へ</small>	い <small>い</small>	平 假 名
す <small>す</small>	し <small>し</small>	さ <small>さ</small>	ふ <small>ふ</small>	に <small>に</small>	ら <small>ら</small>	れ <small>れ</small>	を <small>を</small>	と <small>と</small>	ろ <small>ろ</small>	
ん <small>ん</small>	ゑ <small>ゑ</small>	き <small>き</small>	こ <small>こ</small>	く <small>く</small>	む <small>む</small>	ろ <small>ろ</small>	わ <small>わ</small>	ち <small>ち</small>	は <small>は</small>	
と <small>と</small>	ひ <small>ひ</small>	ゆ <small>ゆ</small>	に <small>に</small>	や <small>や</small>	う <small>う</small>	つ <small>つ</small>	か <small>か</small>	り <small>り</small>	に <small>に</small>	
	も <small>も</small>	め <small>め</small>	て <small>て</small>	ま <small>ま</small>	ゐ <small>ゐ</small>	ね <small>ね</small>	よ <small>よ</small>	ぬ <small>ぬ</small>	ほ <small>ほ</small>	

■課題2 『源氏物語』の巻名を読む

『源氏小鏡』古活字本

(国文学研究資料館蔵、DOI:10.20730/200017298)



源氏目録

宇治十帖

- 一 きりつ 一名つ せんさい共云 し
- 二 木 ちらひ う せ 夕
- 三 紫 らひ むは

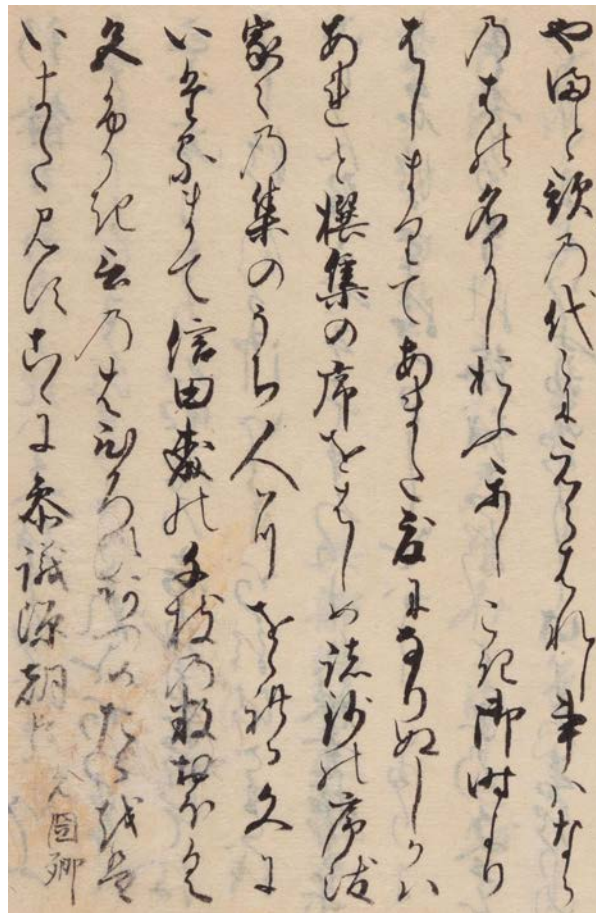
- 一 しひめ
- 二 もと
- 三 あけま
- 四 さ らひ
- 五 とり木
- 六 あ まや

■課題3 近世叢書の序文を読む

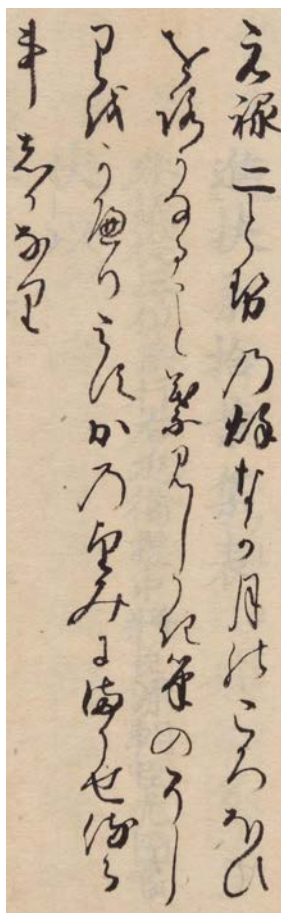
『扶桑拾葉集』 目録

(国文学研究資料館蔵、DOI:10.20730/200016527)

(冒頭部分)



(末尾部分)



歌の代々に 事は

名にしおふ 御時より

あまた度になりぬ

撰集の序をはしめ諸鈔の序跋

家々の集のうち人にをくれる文に

信田森の千枝の数

色ふかき言のは あつめたるをは

こゝに参議源朝臣 光圀卿

*

元禄二 の秋 月

こと葉 筆のそし

りを かの望みにまかせ侍る

事

■ 課題 1 基礎編①

明治時代の小学校教科書を読む

〈教材〉 『読方入門』

(国立国会図書館蔵)

〈解説〉 文部省編輯局によって明治17年に刊行された教科書。小学校一年生の教材として作られ、当時としては最小限の平仮名・片仮名を学習させることを旨としていた。



DOI: 10. 11501/901674

(飛春) (祢者)
うぐひすのねは、たの



(具 本止、春)
しく、ほととぎすの



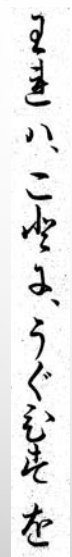
(惠者) (奈)
こゑは、かなし。



(奈) (以 連越)
なんぢは、いづれをこのむぞ、



(玉連) (登尔) (飛春)
われは、ことに、うぐひすを



(阿以須)
あいす。



■課題2 基礎編②

『源氏物語』の巻名を読む

〈教材〉 『源氏小鏡』古活字本

(国文学研究資料館蔵、九九―一七九)

〈解説〉室町時代初期の成立とみられる、

『源氏物語』の梗概書。江戸時

代の末期に至るまで広く流布し、

幾種類もの整版本が刊行された。

教材は慶長く元和刊行の古活字

版三卷本。



DOI: 10. 20730/200017298

① 一 きりつほ (本)

② 一 名つほせんさい共 云へし (本) (遍)

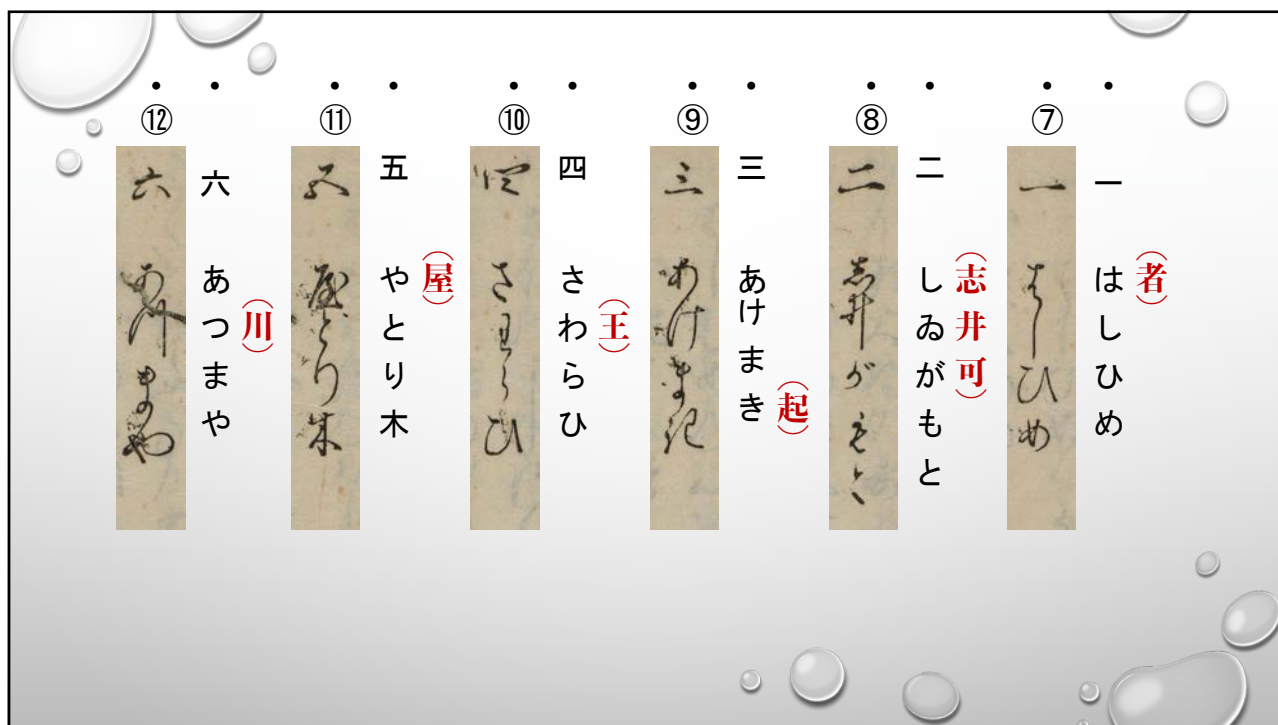
③ 二 はゝ木と (著)

④ 二 ならひうつせみ (川) (三) (可本) (可)

⑤ 三 わか紫 (可)

⑥ 三 ならひすゑつむはな (奈) (春惠徒) (奈)

⑥ 三 ならひすゑつむはな (奈)



■課題3 応用編

近世叢書の序文を読む

〔教材〕流布本『扶桑拾葉集』目録
 (国文学研究資料館蔵、八九―一四一)
 〈解説〉江戸時代前期、水戸光圀の監督
 下に編纂された、日本で最初の
 和文集。流布本は全三十五冊で、
 九世紀から十七世紀までの和文、
 全三百十三編を収録する。

DOI: 10. 20730/200016527

(冒頭部分)

やまと歌の代とにえらはれし事はなら

やゆと秋の代とにえらはれし事はなら

のはの名にしおふかしこき御時より

のまはるるしはしあまの御時より

はしまりてあまた度になりぬしかは

あれと撰集の序をはしめ諸鈔の序跋

あはれと撰集の序をはしめ諸鈔の序跋

家との集のうち人にをくれる文に

家との集のうち人にをくれる文に

いたるまで 信田森の千枝の数おほく

いそふりて信田森の千枝の数おほく

色ふかき言のはひろひあつめたるをは

久あつめたるをは

いまた見す ころに参議源朝臣

いまた見す ころに参議源朝臣

いまた見す ころに参議源朝臣

(末尾部分)

元禄二とせの秋なか月のころほひ

え禄二とせの秋なか月のころほひ

をろかなること葉みしかき筆のそし

をろかなること葉みしかき筆のそし

りをかへりみすかの望みにまかせ侍る

りをかへりみすかの望みにまかせ侍る

事 しかなり

事 しかなり

(使用字母)

あ…阿 か…果・可 き…起 く…具

こ…古 し…志 す…須 せ…勢

た…多・堂 に…耳・尔 の…能・乃

は…者・盤 ひ…飛 へ…遍 ほ…本

ま…満 み…見・三 り…里 る…累

れ…連 を…越